

大学等名	岐阜女子大学
プログラム名	岐阜女子大学データサイエンス基礎教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

授業科目 情報処理 I ～情報処理応用演習～ の2単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理 I ～情報処理応用演習～	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理 I ～情報処理応用演習～	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理 I ～情報処理応用演習～	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理 I ～情報処理応用演習～	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理 I ～情報処理応用演習～	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 (プログラムを構成する授業科目は1つなので、以下科目名を省略する) ・ビッグデータ、AI、生成AI、データ量の増加、人間の知的活動とAIの関係性(1回) ・ビッグデータ、ICT、IoT、第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会(2回) ・ビッグデータ、AI、生成AI、AIの非連続的進化(11回) ・AI、生成AI、ロボット、AIの非連続的進化(12回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス(14回)
	1-6 ・AI最新技術の活用事例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AI)、基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル(12回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(2回、13回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・構造化データ、データのオープン化(オープンデータ)(2回、5回) ・実験データ、人の行動ログデータ、一次データ、二次データ(11回) ・非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)(12回)
	1-3 ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(3回、13回、14回) ・研究開発、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(3回、14回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、活動代替(11回) ・対話、コンテンツ作成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援などの生成AIの応用(12回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ可視化:多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、マルチモーダル(言語、画像、音声など)(12回) ・非構造化データ処理:言語処理、音声処理(13回)
	1-5 ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介(13回) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)、教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介(14回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護、データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(4回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)(12回) ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)、個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、オプトアウト、データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護、AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)、生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)(15回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)、暗号化と復号、ユーザ認証、パスワード、匿名加工情報、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介、サイバーセキュリティ(4回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)(5回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値(6回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)(7回) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)(8回) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)(8回、10回) ・観測データに含まれる誤差の扱い、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(9回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)(7回、8回) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)、不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)、優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)(7回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)(7回、8回、9回、10回) ・データの集計(和、平均)(6回) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)(9回、10回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス・AIを学ぶ目的やデータやAIを活用する価値を説明できる。 ・社会におけるデータやAIの活用事例を知り、データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。 ・データを適切に読み解く、データを適切に説明する、データを扱うための基礎的なデータ処理のスキルを身につける。 ・データやAIを活用する際に求められるモラル・倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)、個人の情報を守るための留意事項を説明できる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 0人 女性 772人 (合計 772人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
家政学部	427	170	680	70	67											70	10%
文化創造学部	345	160	640	70	65											70	11%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	772	330	1,320	140	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140	11%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

常置の委員会である、岐阜女子大学情報教育委員会は、令和5年度まで情報教育の推進に関わる事項と学内教育用コンピュータ及びネットワークの企画・運用・管理を行う組織であったが、令和6年度より、それらに加え、岐阜女子大学における数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内容の企画・運営及び自己点検評価に関わる業務を担うことになった(令和5年度までの対応は、学長の特命によるデータサイエンス教育検討ワーキンググループが行っていた)。委員会の業務内容は以下のとおりである。

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

- 一 情報教育及び研究に関する事項
- 二 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内容の企画・運営に関する事項
- 三 前号の教育プログラムの自己点検・評価及び情報公開に関する事項
- 四 教育用情報機器、ネットワーク装置の運用に関する事項

⑦ 具体的な構成員

委員長 文化創造学部 教授 久世 均 (デジタルアーカイブ専攻 デジタルアーカイブ研究所長・産官学連携室長)

家政学部 准教授 野口 雅子 (生活科学専攻)

家政学部 教授 大崎 友記子 (住居学専攻)

家政学部 教授 野村 裕也 (健康栄養学科)

文化創造学部長 教授 横山 隆光 (初等教育学専攻)

文化創造学部 講師 瀬戸 敦子 (文化創造学専攻)

文化創造学部 講師 林 知代 (デジタルアーカイブ専攻)

文化創造学部 特任教授 村瀬康一郎 (初等教育学専攻)

財務部長 浅野 敏雄

学事部長 市橋 正信

学事部調査役 橋詰 恵雄 (IR室長)

総務部次長 松尾 大成 (システム管理課長)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	11%	令和7年度予定	50%	令和8年度予定	75%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	1,320

具体的な計画

平成6年度から、教育プログラム実施と同時に「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」を1年次の全学必修科目としており、1年次在籍学生の履修率の目標は100%である。令和6年度以降入学した1年次在籍学生が全員履修することにより、全在生について4年間で履修率の100%達成を目指す。

(なお、本プログラムの科目「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」は、全学教養科目の選択科目であったものを、科目名称はそのままであるが、1年次の後期に設定される必修科目とするとともに、授業内容を、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムに準拠するよう一新したものである。なお、1年前期の必修科目「情報処理基礎演習」では、大学での学修に必須であり日常の情報利活用にも欠かせない、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンソフト等、学修支援システムやグループウェア等の学内の各種情報システム、電子メールの使用方法とともに、情報モラル・情報セキュリティの基礎的な学修を行っている。)

また、本教育プログラムの授業は、本学が推進している「Multi Campus One Digital University」構想による科目の一つとなっており、e-Learnigオンデマンド教材による授業開講で、いつでもどこでも何回でも学習できる環境で履修率の向上を図っている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

・「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」は、必修の教養教育科目として開講されている。
 ・家政学部3クラス、文化創造学部3クラス計6クラスで、同一の内容のe-Learnigオンデマンド教材(GoogleClassroom上に構築)15コマを受講する。指定の教科書と担当教員による授業ビデオの視聴、表計算ソフトを用いたデータ処理実習を行う。

・毎回の課題に取り組みレポートを提出させることにより、出席確認と評価を行っている。

・GoogleClassroom上の教材はいつでもどこでも学習に取り組むことができるが、自宅や下宿などでネット回線の不備やPCを所有していない学生への学習保障、必要に応じての対面授業を行うため、6クラスそれぞれに週1コマの実時間・実教室を確保して、学内のPC教室で受講できるようにしている。

・質問応答や問い合わせ等は、GoogleClassroomのストリームや、グループウェアのサイボウズでのメッセージにより随時行っているほか、PC教室と同じフロアに研究室がある2名の教員を含め担当教員全員で質問しやすい環境をとるよう努めている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

・前後期の学年全体に対するガイダンスで、科目の説明と受講登録を必ず行うよう指導している。

・受講登録期間に、サイボウズで1年生全員にアナウンスを行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

・平易な教科書と授業ビデオ，授業資料によるオンデマンド教材で，いつでもどこでも学習でき，また繰り返し視聴することで理解を深められるようにしている。
・質問・問い合わせ等も，LMS，グループウェア，対面の複数の方法で，担当教員らと随時コンタクトできるような体制としている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

⑨でも述べたように，
・GoogleClassroom上の教材はいつでもどこでも学習に取り組むことができるが，自宅や下宿などでネット回線の不備や通信料の負担軽減，PCを所有していない学生への学習保障として，また必要に応じての対面授業を行うため，6クラスそれぞれに週1コマの実時間・実教室を確保して，学内のPC教室で受講できるようにしている。
・質問応答や問い合わせ等は，GoogleClassroomのストリームや，グループウェアのサイボウズでのメッセージにより随時行っているほか，PC教室と同じフロアに研究室がある2名の教員を含め担当教員全員で質問しやすい環境をとるよう努めている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

岐阜女子大学情報教育委員会	
(責任者名) 久世 均	(役職名) 文化創造学部教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>令和6年度に開始した本プログラムの「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」は1年生の必修科目であり、令和6年度の1年生(家政学部71名、文化創造学部68名)のうち、家政学部70名、文化創造学部70名(過年度生3名含む)が履修している。授業各回の出席は毎回の課題提出を持って出席とし、その内容を点検することで、学生の修得状況を把握している。</p> <p>令和6年度の単位取得状況は、140名のうち131名が単位取得し、取得率は94%であった。学期末後の本来の単位認定期間までに単位取得できなかった学生については、e-Learningオンデマンド授業の、何時でも・何処でも・何度でも学べる良さを活かし、欠席した授業回の再受講と課題提出をさせることで単位修得につなげた。未履修2名及び未取得9名は令和7年度に再履修させる</p>
学修成果	<p>本プログラムの「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」の成績評価において、80%以上(優)の学修成果を収めた者が68%、70%以上(良)の者は16%であり、大部分の受講生は本プログラムが求める知識・技能等をおおむね修得できたと考える。</p> <p>また、授業後アンケートで例えば、項目「授業や教材は分かりやすい」に対し肯定的(そう思う、ややそう思う)な回答は88%、「授業の進行スピードは適切だった」に対しては93%、「授業の分量は適切だった」は91%、「授業は役に立っているという実感がある」については91%、「e-Learning授業なので、自分の都合の良い時間と場所で取り組めた」は97%であり、学修の状況は良好であったと判断する。</p> <p>今後は、これらにより受講生の学修成果の実感度、学修状況の実態や授業方法及び内容に関する問題点を把握し、授業担当教員と共に、より学修成果が上がる授業内容・方法の検討を行っている予定である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>令和6年度は、本プログラムの「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」の授業後にアンケートを実施し、127名から回答を得て分析を行っている。</p> <p>上記の学修成果欄に示したアンケート項目の結果のほか、項目「データ処理実習では、処理の方法や考え方を理解し実際に処理することができた」には肯定的(そう思う、ややそう思う)な回答が98%、項目「データサイエンスの授業は、新しい学びや発見があった」に対しては97%、項目「データサイエンスの授業は、将来の自分の生活や仕事に役立つと思った」についても97%と肯定的な回答があり、学生の内容の理解度は高い。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムの授業科目「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」は必修科目であり、家政学部および文化創造学部の両学部生とも1年次後期に必ず履修することとなっている。そのため、後輩学生への推奨度によらず全新生はこの科目を必ず履修することになる。</p> <p>上記の学修成果欄に示したアンケート項目の結果のほか、項目「積極的に授業に取り組んだ」に対して91%の学生が肯定的な回答をしていることから、後輩等他の学生への推奨度は高いと考えられる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムは令和6年度に開始しており、授業科目「情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～」は1年生の必修科目であることから、3年後の令和9年度末に全学生の履修を達成できる見込みである。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>当該授業は令和6年度より、1年次対象の必修科目として新規に開講されたため、当該授業を履修し単位を修得して卒業した学生はいない。令和9年度に最初の卒業生が出ることになり、それ以降、本学キャリア支援センターと連携しつつ、本プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握するための卒業生調査や、就職先への調査などを行い、自己点検・評価に生かしていく予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>令和7年9月に岐阜県内の企業や関係機関を対象とした採用意向調査を実施予定である。本調査では、会社名、採用予定職種・人数、求めるスキルや資格など、採用にかかわる計画や条件、さらに、数理・データサイエンス・AI教育に関する要望などを確認する。これにより、産業界のニーズを教育プログラムに反映し、実践的かつ社会的要請に応える人材育成を目指す。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>第1回の授業と第15回のおまとめにおいて、数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義」や心構えを説明し、理解させるに努めている。また、第2回「情報をめぐる世の中の潮流」、第3回「広がるデータ活用の幅」の中でも、数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義」や目的に触れている。第6～10回では、実際のデータと表計算ソフトにより情報処理実習を行い、データ活用することとおした「学ぶ楽しさ」を感じられるようにしている。</p> <p>授業後アンケートでも項目「なぜデータサイエンスを学ぶのか理解できた」に98%、項目「データサイエンスの授業は、新しい学びや発見があった」に対しては97%、項目「データサイエンスやAIが社会でどのように活用されているか理解できた」99%、項目「データ処理実習では、処理の方法や考え方を理解し実際に処理することができた」98%であり、項目「データサイエンスの授業は、新しい学びや発見があった」に対しては97%、項目「データサイエンスの授業は、将来の自分の生活や仕事に役立つと思った」についても97%と肯定的な回答であり、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」は理解できていると考える。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業後アンケートにおいて、次のような項目を設けて授業内容・授業方法に関する学生評価を調査している。</p> <p>①授業や教材は分かりやすい、②授業の進行スピードは適切だった、③授業の分量は適切だった、④授業は役に立っているという実感がある、⑤指定の教科書は分かりやすかった、⑥授業ビデオや教材は取り組みやすかった、等</p> <p>令和6年度の評価は、上記の学修成果欄、内容の理解度欄、推奨度欄に示したとおり、ほぼ90%の学生が肯定的な回答をしている。</p> <p>アンケートの各項目と自由記述の回答とその分析を、岐阜女子大学情報教育委員会において行い、「自己点検評価委員会」「内部質保証推進会議」と情報を共有し協同するとともに、担当教員と連携して随時シラバスや授業方法の点検・改善をしながら「分かりやすい」授業を模索していく予定である。</p>

シラバス2024

開講年度	2024	ナンバリング	11G10102(2015) 11G10102	学期	後期	開講学年	1	授業方法	講義・演習	単位数	2
授業科目名	情報処理Ⅰ～情報処理応用演習～										
授業担当者	村瀬 康一郎・櫛 彩見・林 知代・澤井 進		実務経験	有							
実務経験内容	-		実務経験と授業との関係	-							
授業の到達目標及びテーマ	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス、AIを日常の生活や仕事で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身につける。そして、学修した数理・データサイエンス、AIに関する知識・スキルをもとにして、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく見よからの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになる。		ディプロマポリシーとの関連性	演習を実施する中で主体的、能動的な学びを意識し課題の発見や課題の解決に積極的に取り組む力を育成する。							
授業進行形態	e-Learningによる授業と実習										
シラバスの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンス・AIを学ぶ目的やデータやAIを活用する価値を説明できる。 社会におけるデータやAIの利活用事例を知り、データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。 データを適切に読み解く、データを適切に説明する、データを扱うための基礎的なデータ処理のスキルを身につける データやAIを利活用する際に求められるモラル・倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）、個人の情報を守るための留意事項を理解する。 										
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> データ・AIによって社会や日常生活が大きく変化していること、その利活用により新しい価値が生まれていることを学ぶとともに限界があることも学ぶ。 データを読み解き、適切に説明・表現するためのデータ処理実習を行う。 データやAIを利用する際の留意点を学ぶ。 										
準備学習の具体的内容	データやAIが身の回りや社会で利用されている状況を観察し、どのように利活用していけるかを考えるとともに、注意すべき点を考えておく。										
予習の内容	テキストの該当部分を読み理解する		予習時間	1.0時間							
復習の内容	講義で学んだこと、自習した内容をまとめる		復習時間	1.0時間							
アクティブ・ラーニングの要素	実習										
オフィスアワー	村瀬：サイボウズ（murasek） 木曜日（11:00～12:30）、林：メール（tomoyo@gijodal.ac.jp）水曜日（15:00～16:00）										
授業計画	第1回 オリエンテーション～データサイエンスで学ぶこと AIにサポートされる社会 第2回 情報をめぐる世の中の潮流 第3回 広がるデータ活用～身近に広がるデータサイエンス、データの活用が生み出す新しい価値 第4回 情報倫理とセキュリティ～データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理 第5回 データの種類とその活用 第6回 データリテラシー～データを正しく読み取る 第7回 データの収集と視覚化～グラフの種類と特徴 第8回 データの収集と視覚化～相関・回帰 第9回 データの解析方法～検定：データの関連性 第10回 データの解析方法～いろいろな検定 第11回 AI開発の歴史といま 第12回 情報の利活用と方法 第13回 AIによる生活のアップデート 第14回 AIによる社会のアップデート 第15回 秩序あるデータの重要性、まとめ										
試験及び方法	課題の提出		フィードバックの方法	LMS、サイボウズでの質疑応答							
テキスト	大学基礎データサイエンス 数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～準拠、伊藤大河／川村和也／内田瑛、実教出版、2023年08月、\1100										
参考書	授業時間中に指示する。										
学生に対する評価及び基準	授業ごとの課題、最終課題、授業参加状況をもとに総合的に評価する。										
再試験	有										
臨時休業等に伴う遠隔授業の対応について	一部の講義を除き対応可能										



学 生 便 覧

2024年度入学生用
(令和6年度)

岐 阜 女 子 大 学

目 次

岐阜女子大学学歌	1
学長のことば	2
学園の沿革	3
I 岐阜女子大学学則	7
卒業資格及び学士の学位	17
教育課程(授業科目・単位数)	18
II 岐阜女子大学履修規則	34
教育課程(授業科目・配当年次)	35
III 岐阜女子大学学務規程	57
IV 岐阜女子大学科目履修要項	61
V 岐阜女子大学GPA制度に関する要項	72
岐阜女子大学GPA制度の取扱いに関する内規	73
VI 免許・資格取得要項	74
教育職員免許状(教職課程)に関する教育科目表	75
保育士課程に関する教育科目表	91
衣料管理士に関する教育科目表	93
建築士課程に関する教育科目表	94
栄養士課程に関する教育科目表	96
管理栄養士課程に関する教育科目表	97
食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格に関する教育科目表	99
健康運動実践指導者に関する教育科目表	100
日本語教員に関する教育科目表	101
学芸員課程に関する教育科目表	102
司書課程・学校司書に関する教育科目表	103
学校図書館司書教諭課程に関する教育科目表	104
デジタルアーキビストに関する教育科目表	105
上級情報処理士に関する教育科目表	106
VII 学生生活	107
1. 学生心得	107
2. 忌引・出校停止・公欠に関する内規	107
3. 学生表彰規程	109
4. 「課外活動」への学生に対する「表彰状」等の授与に関する申合せ	109
5. 転学部・転学科規程	109
6. 再入学規程	110
7. 気象警報における措置	110
8. 交通機関不通時における措置	111
9. 自動車通学者登録規則	111
10. 学生証・学割交付規程	112
11. ハラスメント	112
12. 諸手続き(諸証明発行等)窓口並びに手数料(事務局の相談窓口案内)	113
VIII 就職紹介業務規程	116

別表(第3条関係)

教育課程(カリキュラム)

(1)全学共通教育科目

分野	学科目・授業科目	単位数			行う授業科目 を 利用して	配当年次								備考		
		必修	選択	自由		1年次		2年次		3年次		4年次				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
教養教育科目	自己探求	2				2									教職 編入生は必修	
	自己探求Ⅱ-DA-	2					2								自己探求Ⅲ 自己表現Ⅲ 自己創造Ⅲ より1科目選択必修	
	自己探求Ⅲ-メタバース・データサイエンス-		2					2								
	自己表現Ⅰ	2				2										
	自己表現Ⅱ-DA-	2					2									
	自己表現Ⅲ-ドローン-		2						2							
	自己創造Ⅰ	2					2									
	自己創造Ⅱ	2					2									
	自己創造Ⅲ		2							2						
	情報	情報処理基礎演習	2				2									14単位
	外国語	英語Ⅰ		2			2									教職必修 選択必修2単位
		中国語		2			2									
		ポルトガル語		2			2									
		ヒンディ語		2			2									
	教養選択	生涯学習概論		2			2									文化創造学部を除く
		学びと社会Ⅰ		2			1	1								
		学びと社会Ⅱ		2					1	1						
		学びと社会Ⅲ		2							1	1				
		日本の民俗		2				2								
		日本文化史		2				2								
		伝統文化教育		2					2							
		日本国憲法		2					2							
		人権教育		2						2						
		スポーツと健康		2				2								
		スポーツ		1				1								
		情報処理Ⅰ-情報処理応用演習-	2						2							
		情報処理Ⅱ-情報と人権-		2						2						
		情報処理Ⅲ-無人航空機演習-		2							2					
英語Ⅱ		2						2								
★海外語学研修		2							2							
留学生用科目	外国語としての日本語		2			1	1								以下留学生のみ受講可	
	日本語能力試験1級 文法		2			1	1									
	日本語能力試験1級 講読		2			1	1									
	日本語能力試験1級 文字・語彙		2			1	1									
	その他	大学基礎講座	2				2									
	日本生活入門	4				2	2									
	論文読解基礎		2					2								
	論文作成基礎		2						2							
卒業所要単位												計26単位				
教育の基礎的理解に関する科目等	教育原理			2	○			2								
	教師論			2	○		2									
	教育制度			2	○				2							
	教育経営学			2	○			2								
	教育心理学			2	○			2								
	特別支援教育			2				2								
	教育課程論			2					2							
	道德教育の理論と方法			2					2							
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			2						2						
	教育方法論			2							2					

↑自由科目は、卒業単位数に含まれません。

分野	学科目・授業科目	単位数			行 業 科 目 を 利 用 し て	配当年次								備 考	
		必 修	選 択	自 由		1年次		2年次		3年次		4年次			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の方法・技術 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)			2						2					
	生徒指導論(進路指導を含む)			2				2							
	教育相談Ⅱ(カウンセリングを含む)			2				2							
	事前・事後指導			1								1			
	中学校教育実習A			4										4	
	中学校教育実習B			2										2	
	高等学校教育実習			2										2	
	栄養教育実習			1										1	
	教職実践演習(中・高)			2										2	
	教職実践演習(栄養教諭)			2										2	

↑自由科目は、卒業単位数に含まれません。

注1：大学設置基準第9条の規定(大学以外の教育施設における学習)により、4年次までの時点で無人航空機操縦者技能証明を取得した者には、申請により「情報処理Ⅲ－無人航空機演習－」2単位(認定)を与える。

注2：外国語科目において、大学設置基準第9条の規定(大学以外の教育施設における学習)により、3年次までの時点で実用英語技能検定2級以上又は、TOEIC 500点以上を取得した者には、申請により「英語Ⅱ」2単位(認定)を与える。

注3：海外語学研修は、外国において、語学研修(原則として1ヶ月以上)を行った者に、申請により2単位を上限に認定する。

【単位互換】

大学設置基準第9条の規定(大学以外の教育施設における学習)により、単位互換協定による「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜(岐阜県内の大学、短期大学、高等専門学校で構成)」の授業を履修した者には、本人申請により、8単位を上限に単位を認定する。

岐阜女子大学情報教育委員会規程

第1条 岐阜女子大学に、岐阜女子大学教授会議事運営規則第7条の定めるところにより、情報教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営については、岐阜女子大学委員会共通規則で定めるほか、この規程で定めるところによる。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- 一 学長の指名により選出された者
- 二 学事部長
- 三 学事部の課長

2 委員会に委員長を置き、前項第一号により選出された者の中から互選により決定する。

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

- 一 情報教育及び研究に関する事項
- 二 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内容の企画・運営に関する事項
- 三 前号の教育プログラムの自己点検・評価及び情報公開に関する事項
- 四 教育用情報機器、ネットワーク装置の運用に関する事項

第4条 委員会に幹事を置き、事務局学事部の課長をもって充てる。

第5条 情報関連機器の使用に関する細則は、別に定める。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

岐阜女子大学情報教育委員会規程

第1条 岐阜女子大学に、岐阜女子大学教授会議事運営規則第7条の定めるところにより、情報教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営については、岐阜女子大学委員会共通規則で定めるほか、この規程で定めるところによる。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として組織する。

- 一 学長の指名により選出された者
- 二 学事部長
- 三 学事部の課長

2 委員会に委員長を置き、前項第一号により選出された者の中から互選により決定する。

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

- 一 情報教育及び研究に関する事項
- 二 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内容の企画・運営に関する事項
- 三 前号の教育プログラムの自己点検・評価及び情報公開に関する事項
- 四 教育用情報機器、ネットワーク装置の運用に関する事項

第4条 委員会に幹事を置き、事務局学事部の課長をもって充てる。

第5条 情報関連機器の使用に関する細則は、別に定める。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	岐阜女子大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	岐阜女子大学データサイエンス基礎教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

取組概要



岐阜女子大学 データサイエンス基礎教育プログラム 概要

プログラムの目的

- データ・A Iによって社会や日常生活が大きく変化していること、その利活用により新しい価値が生まれていることを学ぶとともに限界があることも学ぶ。
- データを読み解き、適切に説明・表現するためのデータ処理実習を行う。
- データやA Iを利用する際の留意点を学ぶ。

身に付けられる能力（教育目標）

- ・ 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス、A Iを日常の生活や仕事で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身につける。
- ・ 学修した数理・データサイエンス、A Iに関する知識・スキルをもとにして、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でA I等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになる。
- ・ データサイエンス・AIを学ぶ目的やデータやAIを活用する価値を説明できる。
- ・ 社会におけるデータやA Iの利活用事例を知り、データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。
- ・ データを適切に読み解く、データを適切に説明する、データを扱うための基礎的なデータ処理のスキルを身につける
- ・ データやA Iを利活用する際に求められるモラル・倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）、個人の情報を守るための留意事項を説明できる。

開講されている科目および修了要件 情報処理 I ～情報処理応用演習～（1年後期・2単位）を修得すること

実施体制 岐阜女子大学情報教育委員会

本委員会は、本学における情報教育及び研究に関する事項、教育用情報機器やネットワーク装置の運用に関する事項に加え、令和6年度より、数理・データサイエンス・A I教育プログラムの内容の企画・運営に関する事項、同教育プログラムの自己点検・評価及び情報公開に関する事項に関する業務を担うこととなった。

大学等名	岐阜女子大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	岐阜女子大学データサイエンス基礎教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

取組概要の補足資料



取組の特色

- 家政学部 3 クラス，文化創造学部 3 クラス計 6 クラスで，科目ガイドブック・指定教科書，ビデオ教材・提示資料・課題で構成されたe-Learning教材を提供
オンデマンド教材（Google Classroom上に構築）15コマを受講
- 本プログラムの科目は，本学が推進している「Multi Campus One Digital University」構想による科目の一つであり，e-Learningオンデマンド教材による授業で，いつでもどこでも何回でも学習できる環境で履修率・習得率・理解度の向上を図る
- 各クラスに週 1 コマの実時間・実教室（下表）を確保し，学内のPC教室で受講できる環境を構成
- 質問応答や問い合わせ等は，Google Classroomのストリームや，グループウェアのサイボウズでのメッセージにより随時対応する

Multi Campus One Digital University

e-Learningオンデマンド教材による授業により，いつでもどこでも何回でも学習できる環境で，履修率・習得率・理解度の向上を図る

e-Learning教材

科目ガイドブック

提示資料

ビデオ教材

課題

表 e-Learningオンデマンド学習とともに各クラスに週 1 コマの実時間・実教室を確保

学科・専攻等	曜日・時限	PC教室
書道・観光	月曜 4 限	01221
生活・住居	火曜 3 限	01221
初等教育	火曜 4 限	01221
デジタルアーカイブ	水曜 3 限	01221
健康栄養B	木曜 1 限	01221
健康栄養A	木曜 4 限	01221